

子ども育ちの家「て・い・く」

桜花爛漫・・・

春の息吹を感じる季節を迎えました。4月は子どもたちの入学式や新入社員にとっては社会人の第一歩となる期待と出会いのひと月です。「て・い・く」も新しい仲間が増え、活気に満ちた1年になることでしょう。

震災から2年・・・河津桜の開花から

先日、午後の送迎で祖父母に当たるお家に伺った時のことです。“この河津さくらは、孫の家が地震で全壊したので枝を切ってこの家に持ってきました。早いもので、2年の月日が流れ、やっと一輪咲きました。”

おばあちゃんは庭先に置いてある植木鉢を指され、当時を思い起こされるように話されました。「て・い・く」に通っている子どもさんの中にも地震で自宅を失い、辛い経験を胸に秘めながら精一杯頑張っている姿に初めて気がされた日でもありました。



NO.7 平成30年4月2日
連絡先：096-342-6140



3月12日一足先に開花した河津さくら

情報を共有する・・・担当者会の開催！

サービス担当者会とは、相談支援事業所が定期的に利用者本人（保護者及び支援者）のニーズや放課後等デイサービス等における様子を出し合い、お互いに情報を共有する会議です。

障がいのある子どもさんについて、福祉関係者が一堂に会して情報を共有する支援システムとしてとても重要です。

「て・い・く」を利用される子どもさんについては、担当者で事前協議し、この会議に臨むようにしています。また、保護者（本人）の承諾を得て資料等を準備していく場合もあります。利用される子どもさんに何が一番必要かをしっかり受け止める機会です。

※個別支援計画は障害者自立支援法で義務付けられています。

学校では個別的教育支援計画、福祉では個別支援計画と呼びます。いずれも定期的にアセスメントをして、関係者間で情報を共有する必要があります。支援計画はPDCAサイクルが基本です。

強度行動障がい研修会に参加して



「強度行動障がい」・・・聞きなれない言葉ですが、2月24日（土）市の障がい者支援センター「みなわ」の主催で研修会が開かれました。講師の森口哲也さんは、家族と生活することが難しい、強度高度障がいのある方を3箇月間受け入れ、24時間体制で支援をおこなう、“障がい者行動支援センターか～む”の所長さんです。ご講演では、障がいを冰山モデルに例え、自傷や他傷、物を壊す等の行為は表面（水面）上の問題であり、背景（水面下）にある障がい特性をしっかりと把握し、適切な支援をすることが大切であると説かれました。特に互い（本人、支援者間）のコミュニケーションが伝わらない環境要因が強度行動障がいを引き起こす誘因であると話されました。

私自身の経験からも、支援度の高い人ほどコミュニケーションが苦手（難しい）で、支援者側からの一方通行による思い込みや誤解から、ストレスが生じて自傷等に発展することが度々ありました。

さて、「て・い・く」を利用する子どもさんはどうでしょう。上記のような自傷等はありませんが、会話を苦手とする子どもさんはいます。コミュニケーションは双方向であること、これが基本です。そのための手立て（水面下）をしっかりと把握し、適切な支援をすることが私たちの使命でありスキルだと考えます。

つぎのステップへ

ソイメヨシノが開花し、桜花爛漫の季節を迎えました。3月末から新学期に向けて、子どもたちの生活環境は変わります。新しい友だち、先生・・・子どもたちは、わくわくして4月の新学期に胸を膨らませます。他方、大事な滑り出しにつまづくと、その不安を引きずることになりかねません。周囲の気配りが一番大切な時期です。「て・い・く」では、子どもたち同士や職員との会話を大切にしています。子どもたちはうまく感情をコントロールすることが苦手です。ストレートに表現する中に、困り感等が存在している時があります。子どもたちの思いに寄り添い解決の糸口を一緒に見出していくことが大切だと感じています。（春野）

「て・い・く」のスタッフです。4月からまた、お世話になります

